

地域及び児童の実態

(1) 地域の概要

①「富美」…地名の由来

明治41年の古い地図には、現在の富美川「フォミ川」と書いてある。昭和43年発行の「上湧別町史」には、アイヌ語「フミイ川」（音の立つ川）がそのまま部落名になったと記述されている。その頃の三角点（この地方測量の基点）には「文山」と書いた木札が打ち込まれていたのを見た記憶があると、当時の入植者（古老）が言っていた。

「フォミ」とは、アイヌ語で音をたてる…という意味で、松浦竹四郎の由宇辺都（湧別）日誌では雷鳴の起きることを言い、共に音をたてることで共通している。「フミ」の語源は、その頃の古老が「フミ」と定め、これを漢字にあて「富美」と定めた。

「富んで美しい地」「清らかな地」をあらわす地名は、1世紀を経た今でも、地域住民の誇りでもあり、原動力ともなっている。

②校下地域の概要

校区は、湧別町の北西方向に位置する富美地区・上富美地区の2地区からなり、全戸数38戸（富美32戸、上富美6戸）全人口約130名である。地域のほとんどが、乳牛を営んでおり湧別町の酪農専業農家として中心的な役割を担っている。

校区の中央を縦断する富美川は、上富美と社名淵の分水嶺に源を発し、小河川の合流により形成され、一級河川の湧別川を経てオホーツク海に注がれる。「富美川」は、古くから清く美しい川として、生活・農業用水として利用され、地域住民にとって憩いと安らぎをもたらし、ふるさとの象徴的存在となっている。

また、富美地区には三角点である文山（ぶんざん）、上富美地区には手拭山（てぬぐいざん）をシンボルとした山々に囲まれ、自然豊かな地域である。

③地域の教育姿勢

明治末期の富美地区には、約30戸あまりが定住していた。子どもたちは、悪路の中、湧別川を横断する渡舟に乗り、片道8km離れた北湧校に通学していた。その道のりは、幼い子どもにとっては大変危険を伴い、時々熊の声を聞き、走って逃げ帰ったということも幾度ともなくあった。

そこで、「地域に学校を」との気運が高まり、大正2年7月、地域有志の拠出などにより、地域一丸となって校舎を建設し、開設を成し遂げた。その後、幾多の紆余曲折を経ながらも、地域住民の堅い結束力で学校を守り続けた。平成24年10月7日開校100周年記念式典が盛大に挙行された。

「地域の子どもは、地域で守る」という学校創設時の信念は、111年経った今も脈々と引き継がれ、学校の支援体制も確固たるものがある。

(2) 児童の実態

①児童の状況

◇全校児童7名で、全体的に明るく家族的な雰囲気、異学年が互いに協力し助け合いながら諸活動に取り組む。

◇近年は、女子児童の割合が多い。

◇長きにわたって行われている特色ある教育活動、版画カレンダーづくりや富美太鼓では、上級生がリーダーシップを取ってしっかり伝承されている。

◇学習を始め、特色のある教育活動等、何に対してもよく努力する。

◇個人の発表場面が多く、人前でも堂々と発表する力がついてきている。

②在籍児童数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男子	0	0	0	0	0	1	1名
女子	0	2	1	0	3	0	6名
合計	0名	2名	1名	0名	3名	1名	7名